

ペナンの説明 + 生活

マレーシアは国の宗教がイスラム教ですが、多民族国家なので仏教やヒンドゥー教、キリスト教を信仰している人も多くいます。ペナン島にも多くの民族の人が生活し、それぞれの宗教を信仰しています。町中にモスクがあると思うと、すぐ近くに寺院や教会があつたりします。それぞれの生活、信仰が共存しているところがペナンのよいところです。また、どの民族の人も子どもをととても大切にしています。また、コミュニケーションの面でも、日常生活ではそれぞれの民族の言葉（広東、タミール、マレーなど）を使っていますが、多くの人が英語も使えるので、英語を話して、生活することができます。

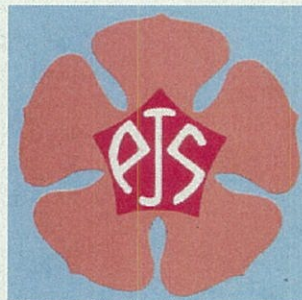
ペナンは、「食の都」とも呼ばれており、至る所にレストラン、屋台やホーカーセンター（複数の屋台が集まっているところ）があつて、各国料理や現地の料理が食べられます。特に現地の料理は料金もとても安く、名物のホッケンミー（福建麵）などを180円くらいで食べることができます。物価は非常に安いですが、日本製の食品などは日本の1.5～2倍程度になりますので、現地のものに比べてとても高価に感じますが、手に入れることはできます。



↑ ホーカーセンター

ペナン日本人学校

ペナン日本人学校は小中併設校で、生徒・児童数は現在（平成21年8月）120名です。少ない人数の小学生と中学生が同じ敷地内、同じ校舎で生活するので、とてもアットホームな感じの学校です。行事の多くは小中合同で行われ、運動会や文化祭（ペスタブンガラヤ）も一緒に行います。敷地内にはハイビスカスやバナナ、ランブータンやカスタードアップルなどが植えてあり、南国の雰囲気を味わえたりもします。現地の特長を生かした環境で児童・生徒が生活しています。



↑ ペナン日本人学校

現地校訪問

夏休みを利用して、ペナンのChung Ling校へ視察に行ってきました。この学校は日本の中高一貫校の男子校です。マレーシアでは基本的に中高一貫のスタイルです。入学するには国の試験を受け、その結果によって判断されるそうです。マレーシアが多民族国家なので、学校もマレー系の学校、チャイニーズ系の学校、タミール系の学校などがあります。Chung Ling校はチャイニーズ系の学校でした。理科の授業を参観しました。国の政策で数学と理科は英語で行っていますが、来年にはマレー語での授業にもどる予定です。中1では「空気の量とろうそくの火が消えるまでの時間」の実験を行い、中2では「大気圧」についてパソコン（プロジェクター）を使って説明していました。中1、中2の教科書を見ましたが、日本の小5から中3までの内容が概略的に盛り込まれていました。